

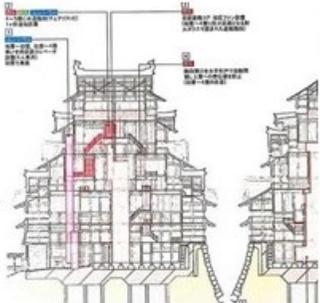
壊すな！名古屋城天守

2017年8月26日

名古屋城を「戦後復興のシンボル」に
高橋和生 実行委員会

天守木造化のような複雑な問題には、このような比較表を作り、木造化について名古屋市は市民に説明し、木造化への市民の理解を得る必要があります。

市長は「資料があるので、スンプン違わぬ国宝の復元ができる・左の案」と言っていますが、作ろうとしているのは「真ん中・観光で儲けるハイテク木造の展望台」です。私たちは、木造化に反対して「右の案・市民に愛されることを目指し、耐震改修+博物館刷新」を訴えています。3案を並べ、観光と文化をわけ、安全の問題を指摘し、市に耐震改修案の作成を求めます。

	違法建築	法適用除外	合法・改修
主役	河村市長のウソ(2つの案を1つとして、使い分けている)		市民に愛される名古屋城
案の名称	国宝名古屋城の伝統木造復元	観光で儲けるハイテク木造	現天守の耐震改修+博物館刷新
姿	<p>燃えた国宝名古屋 1954年 城戸久(名工大教授)復元図 これに基づき、今あるコンクリート天守は作られた。</p>  <p>文化庁と石垣部会は史跡の石垣優先。木造天守の復元内容については文化庁復元小委員会の預かりとなる。未達。</p>	<p>年360万人40年継続すると言う市の観光事業の見通しの検証は未達。</p>  <p>竹中提案書より詳しく後述する。文化財である石垣を壊さないと、作れない。燃える木造建築から避難する階段を新たに作るも、小天守への一方向であり二方向でない。</p>	<p>昭和34年(1959年)竣工、第58年の鉄骨鉄筋コンクリート造</p>  <p>木造天守が大好きな人たちは、現天守の東にある身障者用エレベータが見苦しい、壊すべきだと言うが、身障者エレベータの後ろには屋外避難階段もある。</p> <p>現天守は小天守をとおることなく避難できるよう、二方向避難を確保。安全、かつ、完璧な外観復元。</p>
文化	400年前の新品に文化財性なし	子供たちへの宝?借金は負担でないか?	「戦後復興のシンボル」文化財
観光	「面白い」で、話題になる	「観光」で「面白い」を偽装?	名古屋都市史を示す、観光名所
安全	違法、危険なので中に入れな い。展望台・建築として使えな い。現代に作る建築は現代の 法律に合わせなければならな い。国民の最低限の生命・財産 を守るのが建築基準法である。	建築基準法適用除外条件「原形 (国宝)の再現やむなし」と して法を逃れるには名古屋市の 判断でよいが、名古屋市建築審 査会の「天守木造化の大義名 分」「安全」への同意が必要。	名古屋都市史を示す、観光名所 合法。市長は嘘でこの案を消す 1:耐震工事をしても寿命40年 2:40年後、文化庁は木造と言う 3:現天守は地震に弱い、入場制 限をして、早く強い木造にする
建設費	350億円	500億円 坪3000万円	30億円
工期	7年	5年	2年
先例	掛川城、大洲城があるが、天守 がないところに新たに作った	戦後のコンクリ天守は多くある が、壊して木造にするのは無い	大阪城、小田原城、熊本城(こ れから2年で大林組が行う)

「違法建築」の案は、石垣を積みなおしてから、400年前の木造天守をそのものを作るので、7年と工期は長くかかり、建設費は350億円と安くありません。(読売新聞による。案は名古屋市に未提出。自民党、公明党が所持)

「法適用除外」は、名古屋市がゼネコンコンペにあたって、条件として出したものです。竹中工務店はそれに応じ、名古屋市はこれを選んだので、現在、名古屋市案と思われるのですが、法で定めている第3者機関の名古屋市建築審査会の「同意」をいまだ得ていません。①原形(国宝同等)なのか。②再現やむなしの根拠はなにか③法同等の「安全」は確保されているか。④再建費、名古屋市に替わって、建築審査会が市民に説明するように、名古屋市議会に請願しましたが、議会は「請願を審議しない」でした。

現状の石垣は史跡ですので、残すことが大前提ですが、空襲で焼けており、花崗岩の耐力は70%ほどに落ちていますので、補強せず木造天守を石垣に載せるのは、危険であり、検討がいりません。

違法建築	
主役	河村市長のウソ(2つの案を)
案の名称	国宝名古屋城の伝統木造復元
姿	<p>燃えた国宝名古屋 1954年 城戸久(名工大教授)復元図 これに基づき、今あるコンクリート天守は作られた。</p>  <p>文化庁と石垣部会は史跡の石垣優先。木造天守の復元内容については文化庁復元小委員会の預かりとなる。未達。</p>
文化	400年前の新品に文化財性なし
観光	「面白い」で、話題になる
安全	違法、危険なので中に入れない。展望台・建築として使えない。現代に作る建築は現代の法律に合わせなければならない。国民の最低限の生命・財産を守るのが建築基準法である。
建設費	350億円
工期	7年
先例	掛川城、大洲城があるが、天守がないところに新たに作った

民間業者からの技術提案

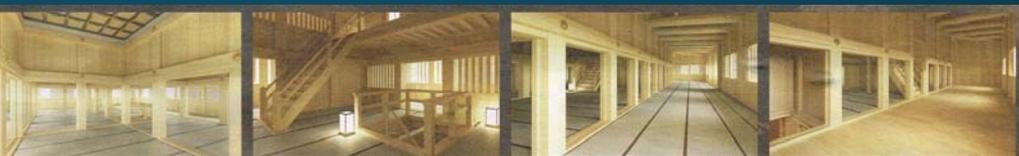
POINT

- ① 史実に忠実な木造天守閣を復元
- ② 平成32年7月末に天守閣を復元
- ③ 実現性のある総事業費を提案

(建設費: 設計費)

提案者	株式会社 竹中工務店
バリアフリー化	小型エレベーター設置を検討(奥にす利用可(人車))
復元過程の公開方法	工事現場内見学施設(仮設)
木材利用	原則、国産材一部外材を使用

昨年6月の広報なごやでは、小型エレベータがつくだけの「史実に忠実な復元」とあり、この6月の寄付金集めのNHKのニュースも同様でした。



木造天守の外観は、現天守と変わりません。このインテリアの為に500億円。天守2層入場料は史実に反しています。



火事

不燃都市ロンドンで木造火災なのか? 木造のように火の回りが早い。
2017年6月14日 死亡者80名以上



空襲の悲惨さに、親父は「燃えない天守だ、大阪のようにコンクリートで」と寄付をしたが、国も戦後に都市の不燃化を法制化した。

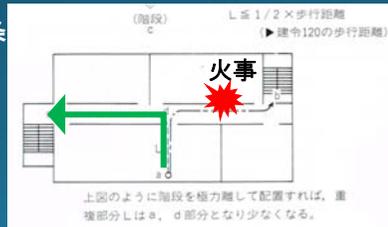
都市計画法
防火地域、準防火地域の地域指定

建築基準法26条(防火壁)
実質1000㎡以上の木造の禁止

建築基準法27条 特殊建築物
不特定多数の人が入る(展望台)施設を、3階以上にもうける場合は**耐火建築物**としなければならない。

建築基準法35条令121条 二方向避難

ロンドンの火事では階段が一本しかなく、階段は煙突となり、燃えない階段の中で窒息死した。



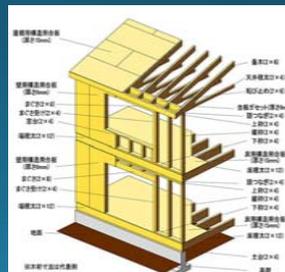
と

地震

丸岡城は震度7の地震で崩壊(昭和23年)したが、建築基準法適用除外で重要文化財にした。

建築基準法6条の2
木造の建築物で三以上の階を有する伝統木造建築は作れない。構造計算なし。(注:時刻歴応答解析)

木軸工法



丸岡城

昭和23年(1948年)の地震で崩壊した丸岡城の復元計画。丸岡城は、戦前、戦中、戦後を通じて、丸岡城の復元計画が進められてきた。丸岡城の復元計画は、丸岡城の歴史を伝える重要な役割を果たしている。

丸岡城の復元計画

丸岡城の復元計画は、丸岡城の歴史を伝える重要な役割を果たしている。丸岡城の復元計画は、丸岡城の歴史を伝える重要な役割を果たしている。

伝統構法

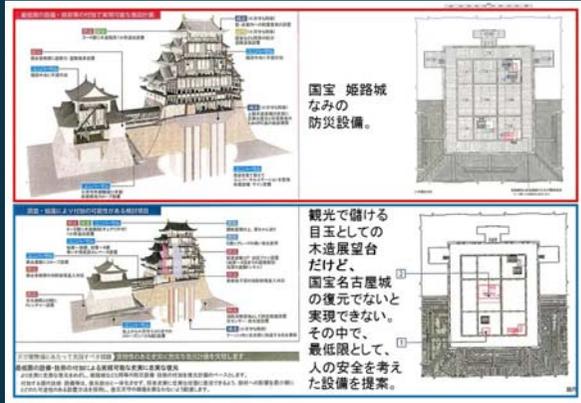
丸岡城の復元計画は、丸岡城の歴史を伝える重要な役割を果たしている。丸岡城の復元計画は、丸岡城の歴史を伝える重要な役割を果たしている。

3階建ての木造は多くあり、ツーバイフォー工法、**パネル工法**はOK。今は特例として6階まで実績を積んでいる。何とか、国産材を生かそうと国も私たちも努力中。

●名古屋城を「戦後復興のシンボル」に 20170826

「スンプン違わぬ国宝名古屋城」は「違法建築」であり、危険です。最低の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進と定めています。

「仮設」で ●ハイテク防災



赤の国宝名古屋城天守をまず復元して、青の「現代の建築：木造6階建ての展望台」として、必要な、最低限として人の安全を考えた設備は、エレベータも、階段も、消火設備も、換気設備も、全て「仮設」であり、取り外しができるので「国宝 そのものの」が、復元される。よって、法適用除外となる。

「仮設」として、実際にはハイテク防災を常設していなければ、観光客は入れないで、この「仮設建築」を、本建築として申請する。こういうのを「詭弁」というのでは？

違法建築より150億円高い

河村市長のウソ(2つの案を1つとして、使い分けている)

法適用除外

観光で儲けるハイテク木造	主役
年360万人40年継続すると言う市の観光事業の見通しの検証は未達。	案の名称
	姿
竹中提案書より詳しく後述する。文化財である石垣を壊さないで、作れない。燃える木造建築から避難する階段を新たに作るも、小天守への一方向であり二方向でない。	
子供たちへの宝?借金は負担でないか。	文化
「観光」で「面白い」を偽装?	観光
建築基準法適用除外条件「原形(国宝)の再現やむなし」として法を逃れるには名古屋市の判断でよいが、名古屋市建築審査会の「天守木造化の大義名分」「安全」への同意が必要。	安全
500億円 坪3000万円	建設費
5年	工期
戦後のコンクリ天守は多くあるが、壊して木造にするのは無い	先例

建築基準法第三条 (法適用の除外)

一 文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)の規定によって国宝、重要文化財、特別史跡、名勝、天然記念物又は...として指定された建築物
四 第一号に掲げる建築物又は保存建築物であつたものの

- ①原形(国宝名古屋城)を再現する建築物で、
- ②特定行政庁(名古屋市)が
- ③建築審査会の同意を得て
- ④その原形の再現がやむを得ないと認めたもの

第3者機関 建築審査会

市の石垣部会

日本建築センター
「防災評価」
「構造評価」
法同等の「安全」と認める

文化庁
記念物課史跡部門への現状変更申し込みをし、
木造天守は復元委員会

国交省大臣認可

文化審議会

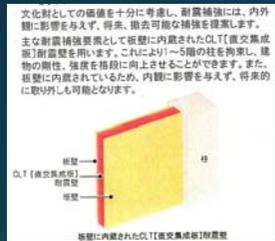
第3者機関 建築審査会

来年2月完成予定
基本設計図書

木軸+パネルの ●ハイブリッド構造

○壁パネル

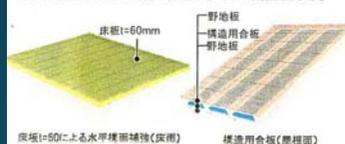
建具の中に耐震材を仕込み、壁とする。見た目は、史実と大きく違うが。



○床パネル

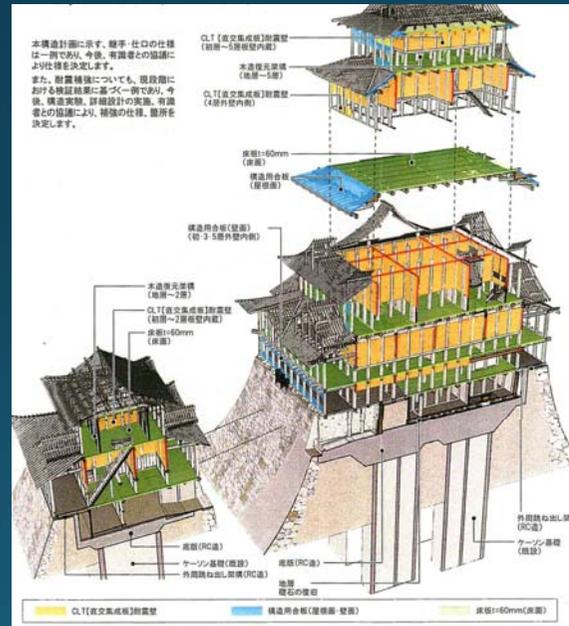
床を一枚のパネルとする。

初層~5層の床面及び屋根面には、荷重伝達と剛性確保のために床板を60mmに増厚したり、構造用合板を野地板の間に内蔵することで、内観に影響を与えない補強とします。



見た目はわからない。

わからないなら史実に忠実と。



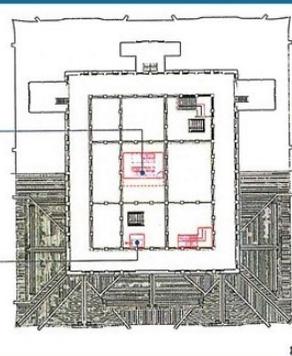
※この中の絵は、竹中工務店の昨年3月の提案書による。名古屋城HPよりダウンロード。一部文字を書き加えている。

「法適用除外」は、名古屋市のコンペ条件であり、進められている案ですが、建築審査会の同意を得ていません。進

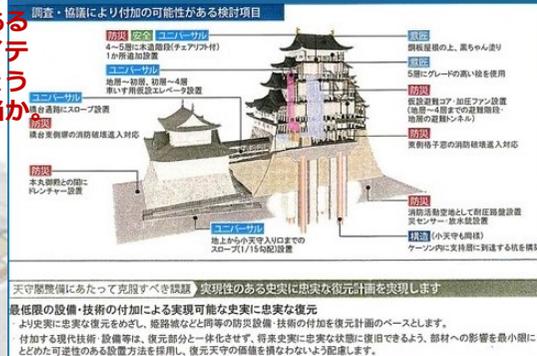
「仮設」で●ハイテク防災を少し見てみます。

竹中工務店はこれで行う。自信があるというだけで、約束までではできません。やってみないと分からない、日本初の木造6階建て展望台です。

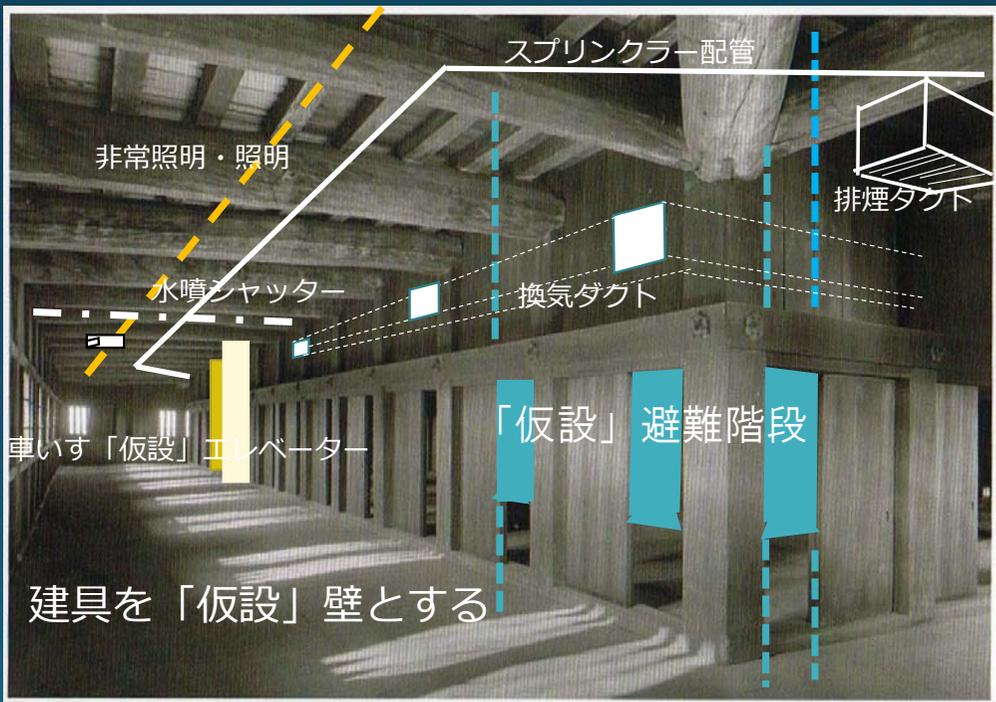
名古屋市とその委嘱された先生方は竹中工務店案を認め、名古屋市案としました。名古屋建築審査会は未だに「同意」していません。どうしてなのでしょう。文化庁はこの姿を原形（国宝名古屋城天守）だと認めるのでしょうか？これは私の指摘でなく、竹中の提案書にあることであり、名古屋が市民に説明しないので、私が代わりに提案内容を解説しているだけです。木造天守の姿は、現代の城としてあるほど、名古屋市民に説明する空襲で燃えた「国宝名古屋城の復元」から遠ざかります。名古屋市民は寄付金を集める以上、市民にこの姿と、それでもできないかもしれないリスクを、示すべきだと思います。



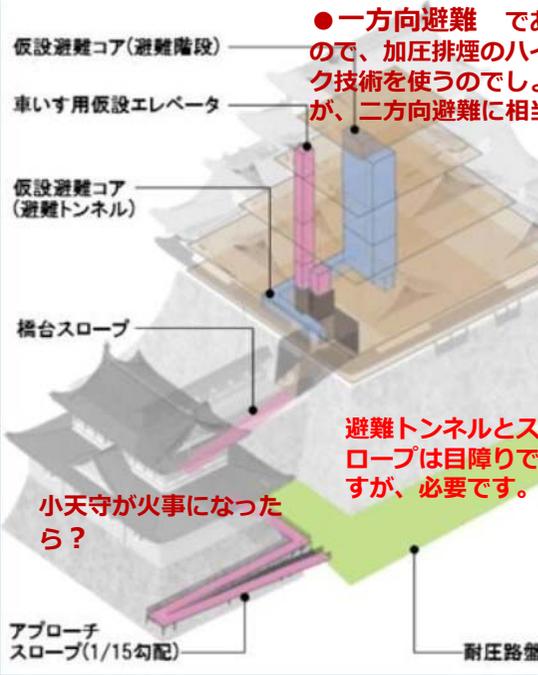
観光で儲ける目玉としての木造展望台だけど、国宝名古屋城の復元でないと実現できない。その中で、最低限として、人の安全を考えた設備を提案。



名古屋市で作成したゼネコン公募要綱から、市が求める設備を写真に入れます。天井がないので隠せないのではなく、「仮設」のハイテク表現です。



建具を「仮設」壁とする



●一方向避難であるので、加圧排煙のハイテク技術を使うのですが、二方向避難に相当か？

避難トンネルとスロープは目障りですが、必要です。

小天守が火事になったら？

●木材での耐火2時間材もあります。(平成12年より耐火設計法)



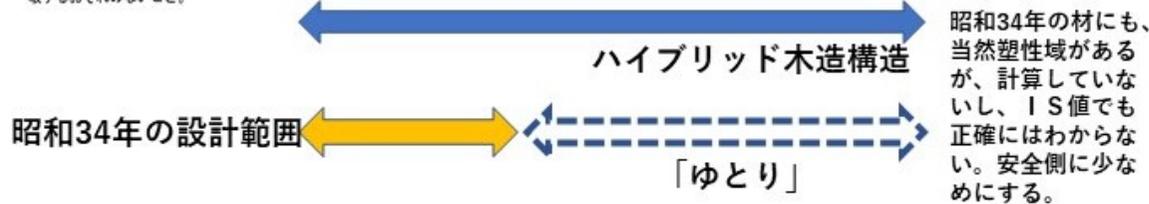
柱・梁は大材であり、燃え広がる前に、避難階段を使い、500人が逃げおせるとい避難シミュレーションは出来ましようか。壁・床パネル構造を利用して、防火区画のための耐火材が使われると思います。

※この中の絵は、竹中工務店の昨年3月の提案書による。名古屋城HPよりダウンロード。一部文字を書き加えている。

建築基準法の耐震基準の概要

- 許容応力度計算（一次設計）
 - 特徴「中規模の地震動でほとんど損傷しない」ことの検証を行う。（部材の各部に働く力<許容の力度）
 - ⇒建築物の存在期間中に数度遭遇することを考慮すべき稀に発生する地震動に対してほとんど損傷が生ずるおそれのないこと。
- 保有水平耐力計算（二次設計）*
 - 特徴「大規模の地震動で倒壊・崩壊しない」ことの検証を行う。（保有水平耐力比 $Q_u/Q_{in} \geq 1$ ）
 - ⇒建築物の存在期間中に1度は遭遇することを考慮すべき極めて稀に発生する地震動に対して倒壊・崩壊するおそれのないこと。

国のHPより転載
昭和34年と現在の設計とでは、材の持ち応える範囲が違う。



昭和34年の材にも、当然塑性域があるが、計算していないし、IS値でも正確にはわからない。安全側に少なめにする。

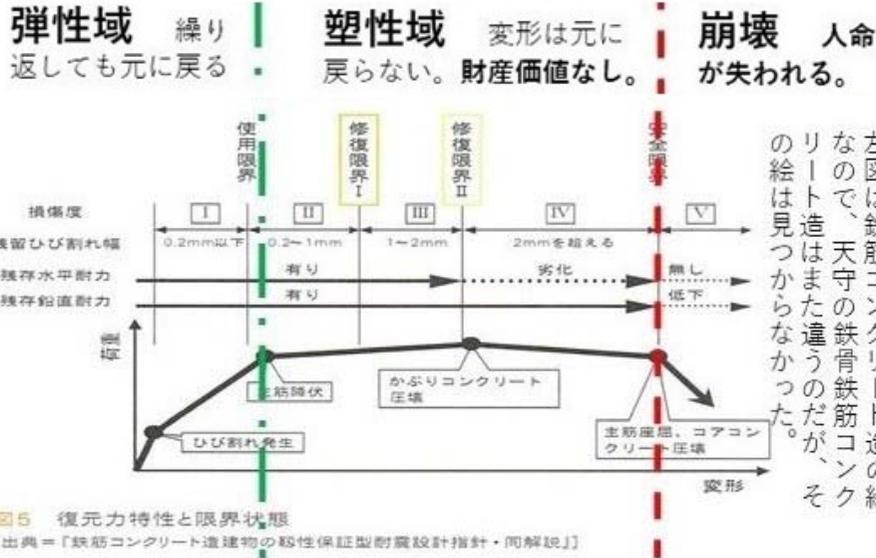


図5 復元力特性と限界状態
【出典＝「鉄筋コンクリート建造物の靱性保証型耐震設計指針・解説」】

左図は鉄筋コンクリート造の絵なので、天守の鉄骨鉄筋コンクリート造はまた違うのだが、その絵は見つからなかった。

天守閣
長「近く入場制限発
耐震性で
2016年10月6日 13時42
新 10月6日 14時59分)



可村たか

マスコミは、市長の言葉を垂れ流すだけ、有識者とはだれか？
名古屋市営繕部のプロはなぜ発言しない。
と、私は怒る。

問題になっている名古屋城天守閣について、市の河村たかし市長は6日、報道陣に対入場制限を発表すると述べた。実施時は今後、詰めていくという。

クリートの天守閣は、市の耐震調査で、倒壊の恐れがあるとされる。市が8月末の有識者6人に意見を聞いたところ、大胆の必要性を提言。一方、入場制限は観望もあり、市長の判断が注目されていた

従って、耐震化も兼ね備えた早期の木造市長と、慎重な市議会との間で意見合点する狙いもあるとみられる。

●昨年12月、名古屋市城総合事務所は「入場制限」はしない。と、発表

「今のコンクリ天守より木造の方が地震に強いのか？」と、聞かれ、私は困りました。

●熊本城 木造化の声もだが国は70億円で修繕と耐震補強をする



IS値0.37でも最上階の柱は修理限界を超えたので壊して作り直す。



●名古屋城を「戦後復興のシンボル」に 20170826

木軸十パネルの●ハイブリッド構造は、耐震改修をした現天守より、強いのか？

文化は市民が生きていく上の誇りですが、観光は生きるための事業です。

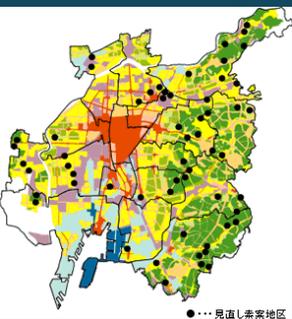
「観光」と「文化」は、分けて考えましょう。

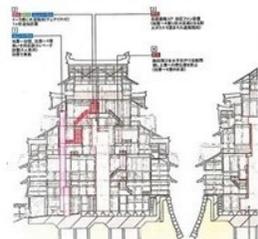
GDP 12兆円の名古屋が描く、将来の都市ビジョンは？

- 今は「ものづくり」のサービス基地で名古屋は稼いでいます。
- 市内に泊まる外人観光客は約20万人。GDPでは300億円でしょうか。
- 名古屋の都市計画は昭和46年以来、工業都市のままですが、工場の多かった港区・中川区の人口が急速に伸びています。住宅地化です。

子供から老人まで、暮らしやすい都市づくりが、「ものづくり」の基点としての名古屋の都市ビジョンだと、考えます。

名城公園と合わせて名古屋城を市民の為のオープンスペースとして一体的に活用されるようにしましょう。今、市民は入場者の1割しかいません。広告代理店は観光客をより入れようと「面白い」事の連発ですが、市民に愛される城であるべきことを忘れています。市民の愛する城にするならば、おのずと、観光客も増えて来ます。



	違法建築	法適用除外	合法・改修
主役	河村市長のウソ (2つの案を1つとして、使い分けている)		市民に愛される名古屋城
案の名称	国宝名古屋城の伝統木造復元	観光で儲けるハイテク木造	現天守の耐震改修+博物館刷新
姿	燃えた国宝名古屋 1954年 城戸久 (名工大教授) 復元図 これに基づき、今あるコンクリート天守は作られた。  文化庁石垣委員会は史跡の石垣優先。木造天守の復元内容については文化庁復元小委員会の預かりとなる。未達。	年360万人40年継続すると言う市の観光事業の見通しの検証は未達。  竹中提案書より詳しく後述する。文化財である石垣を壊さないと、作れない。燃える木造建築から避難する階段を新たに作るも、小天守への一方であり二方向でない。	昭和34年 (1959年) 竣工、築58年の鉄骨鉄筋コンクリート造  木造天守が大好きな人たちは、現天守の東にある身障者用エレベーターが見苦しい、壊すべきだと言うが、身障者エレベーターの後ろには屋外避難階段もある。 現天守は小天守をとることなく避難できるよう、二方向避難を確保。安全、かつ、完全な外観復元。
文化	400年前の新品に文化財性なし	子供たちへの宝?借金は負担でないか。	「戦後復興のシンボル」文化財
観光	「面白い」で、話題になる	「観光」で「面白い」を偽装?	名古屋都市史を示す、観光名所

デービッド・アトキンソン
新・観光立国論
イギリス人アナリストが提言する21世紀の「所得倍増計画」
外国人観光客3200万人、カンブリア宮人の「カンブリア宮人の読書」
GDP成長率6%、日本の進むべき道がここにある

●国
歴史まちづくり法で、地方を支援。全国に対して2年で25億円の予算でした。

「地方創生」の切り札、GDP 600兆円達成への柱と位置づけ、意欲的な目標と、達成に向けた具体策を盛り込んだ「明日の日本を支える観光ビジョン」を取りまとめました。
「目標は訪日外国人旅行者の大幅増加に加え、外国人旅行消費額を2020年4000万人で8兆円、2030年6000万人で15兆円とし、現在4割に満たない地方部への宿泊比率を50%以上に高めることなどを掲げた。野心的で非常に高い目標だが、政策を総動員することで、実現可能である。」のだそうです。



●愛知県
観光事業に生きる活路を見出さなければならぬ地域と、中部の観光の基点となる空港を抱えています。
観光局を25人で立ち上げ、トップは民間から引っ張ってきました。名古屋城は貴重な観光名所です。



●名古屋城を「戦後復興のシンボル」に 20170826

復元された建物

いずれも重要文化財ではありません。図面などなくても木造復元はできます。



金閣寺 1955年



安土城 1992年



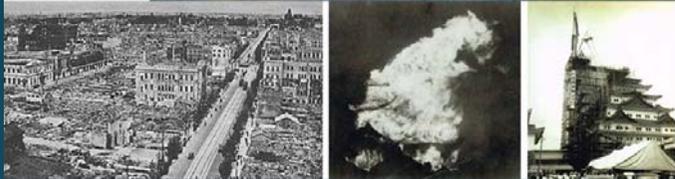
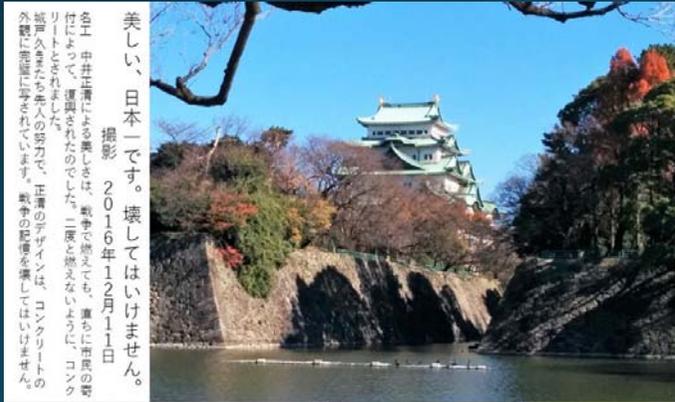
掛川城 1995年



大洲城 2004年

それぞれの理由により、美しく復元されましたが、共通な事は、**無いから、作った！** ことです。

名古屋城は復元されて、美しく今もあります。



なぜ、壊すのですか。

空襲では8000人の市民が亡くなりました。焼け野原から立ち上がるのだと、市民は2億円の寄付をしました。



今や、「戦後復興のシンボル」として、登録有形文化財となります。

大極殿復元(2010年)の影響



図1 平城宮第一次大極殿(2010年復元) [NHK文化放送] (NHK)

復元への批判と大極殿

・・・ヨーロッパでは、随分の天、復元も認めないというコンセンサスに到達している。・・・

現代建築としての復元建物

遺跡の価値を示すプレゼンテーションの一環・・・当時の建物ではない、物れもない「現代建築」である。・・・建築家による高層建物の対峙にはなりたくないので、とりわけ耐震性能と防災性能の確保が求められる。・・・

復元と建築史学の関係

文化庁自らが復元した大極殿。屋外博物館

合法・改修

市民に愛される名古屋城	主役
現天守の耐震改修+博物館刷新	案の名称
昭和34年(1959年)竣工、築58年の鉄骨鉄筋コンクリート造	姿
	
木造天守が好きな人たちは、現天守の東にある身障者用エレベータが見苦しい、壊すべきだと言うが、身障者用エレベータの後ろには屋外避難階段もある。	文化
現天守は小天守をとおることなく避難できるように、二方向避難を確保。安全、かつ、完璧な外観復元。「戦後復興のシンボル」文化財	
名古屋都市史を示す、観光名所	観光
合法。市長は嘘でこの案を消す	安全
1:耐震工事をしても寿命40年	
2:40年後、文化庁は木造と言う	
3:現天守は地震に弱い、入場制限をして、早く強い木造にする	建設費
30億円	
2年	工期
大阪城、小田原城、熊本城(これから2年で大林組が行う)	先例

●名古屋城を「戦後復興のシンボル」に 20170826

せん。現在ある天守を壊さない事には、木造天守はできません。

昨年5月、市民アンケートの文面です。ヤラセ！

問9 現天守閣は、再建から半世紀以上が経過し、コンクリートの劣化や耐震性能が現行基準に合わないなど様々な課題が顕在化しており、現行天守閣を耐震改修した場合でもコンクリートが概ね40年の寿命という調査結果が出ています。この度2020年7月までに天守閣を木造復元するという提案を募集し「株式会社竹中工務店」の優秀提案（事業費約474～505億円、2020年7月天守閣竣工）が選定されたところです。

市民の皆様の理解を得ながら進めてまいりたいと考えております。天守閣の整備について、今後どのようにしたら良いと思いますか。（1つに〇）

- 1 2020年7月までに優秀提案による木造復元を行う
（事業費：約474～505億円、耐震性確保） **21.5%**
- 2 2020年7月にとらわれず木造復元を行う
（工期、金額、契約方法等の検討が必要） **40.6%**
- 3 現天守閣の耐震改修工事を行う
（事業費：約29億円、基礎・石垣を含まない、概ね40年の寿命）
- 4 その他 **26.3%**

河村市長は言います。
「名古屋城には、資料がある。スンプン違わぬ木造天守ができる。文化庁も、天守は木造だと、そ〜う、言っているのだ。」

名古屋市は、昨年「現天守は耐震性が悪い。取り壊して、木造としたい。」と文化庁に申し入れました。

天守を壊す理由は、名古屋が元気になるでも、観光で儲けるでもないのです。それでは文化庁に対し、ウソが明白だと思ったのでしょうか。

市長には、ウソを言っている意識はありません。

【市長の見解】（平成27年7月6日 市長定例記者会見）

復元検討委員会が開かれるときに、木造で建てなさいよという意見が出る可能性が極めて高いということは、その中でわかってくださいよということです。だからこれは木造ということになるんですよ。
—昨年12月タウンミーティング、昨年5月市民アンケートの資料

昨年11月議員に、今年2月に市に以下を反証しましたが無視されました。名古屋に民主主義はありません。マスコミも知っていて知らん顔です。建物の寿命は人が決めるものです。



名古屋市庁舎
意匠に優れ、昭和初期の記念的建築として価値がある。竣工 昭和8年(1933年) 築82年 鉄骨コンクリート造 重要文化財 平成26年(築81年)に重文指定



名古屋テレビ塔
名古屋の戦後復興のシンボル。竣工 昭和29年(1954年) 築61年 鉄骨コンクリート造 国指定の有形文化財 平成17年(築51年)指定



名古屋大学豊田講堂
モダニズム建築の一つの到達点を示す作品。竣工 昭和35年(1960年) 築55年 コンクリート造 国指定の有形文化財 平成23年(築52年)指定

文化庁は怒っていきましょう。

「現天守は価値がある。耐震補強をするのでなく、壊すことに市民の賛同を得られているのか。」が文化庁の回答でしたのに、役人は市民に伝えていません。名古屋市は市民を騙しています。



ところで、前回指摘したように国特別史跡の現状変更、建築基準法で禁止されている4階建て以上の木造建築、消防法、ハートビル法との関連などクリアすべき課題がある。まず、国特別史跡の現状変更だが、名古屋市長が、耐震診断の結果に基づいて現天守の解体を去年文化庁に要望した。それに対し、文化庁は、「現天守は昭和の実測図をもとに建てられていて、戦後の城郭建築として価値がある。耐震補強ではなく木造化を選ぶことに賛同が得られるのか、十分に考慮せずに解体して禍根を残すことにならないのか。現天守を建てる際に、石垣の中に打ち込んだケーソンをそのまま利用し、構造上の補強のためにケーソンの中に杭を打つ案もあるが、遺構の損傷など遺跡の保護上問題はないのか」として、まず解体ありきには再検討を求めている。

合法・改修		
市民に愛される名古屋城	主役	
現天守の耐震改修+博物館刷新	案の名称	
昭和34年(1959年)竣工、築58年の鉄骨鉄筋コンクリート造		
		姿
木造天守が大好きな人たちは、現天守の東にある身障者用エレベーターが見苦しい、壊すべきだがと言うが、身障者エレベーターの後ろには屋外避難階段もある。		
現天守は小天守をとることなく避難できるよう、二方向避難を確保。安全、かつ、完璧な外観復元。		
「戦後復興のシンボル」文化財	文化	
名古屋都市史を示す、観光名所	観光	
合法。市長は嘘でこの案を消す		
1:耐震工事をしても寿命40年		
2:40年後、文化庁は木造と言う		安全
3:現天守は地震に弱い、入場制限をして、早く強い木造にする		
30億円	建設費	
2年	工期	
大阪城、小田原城、熊本城(これから2年で大林組が行う)	先例	

私たちの案「耐震改修+博物館の刷新」です。名古屋市はウソで、耐震改修案を消したのでした。

名古屋は今、黒雲で覆われています。どこで、耐震改修案が消えたのか、この二年を振り返ります。

新聞記事を読んでも「違法建築」も「法適用除外」も、「耐震改修案」もありません。施主の名古屋市は、設計者でもあり、違法建築も見張るのですが。

2018年2月基本設計完成予定

2018年

6月名古屋市は寄付金条例を定め、展開中
 5月竹中と市は、設計・施工分離で契約
 4月市長選挙。天守木造化の公約を実現した。と、選挙に勝つ。



年

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	-----	-----	-----

●8月9日。市長より、「石垣を大事に考える」と書面で示されたが、具体策がなく、今後が見えない。

●5月12日文化庁・石垣部会から「木造天守ありき」の石垣調査は認めないとあり、「天守木造化」は入り口でストップ。

●中日新聞 河村氏×岩城氏「闘論」(動画) 4月1日

名古屋城の天守閣木造化もそうだがね。あんまりこんなところで言っていていいかわかんけど、職員から『木造化はできません』って。『これはもう流れがあるからコンクリートで補修です』と。『もし市長がそういうのなら業務命令書書いてくれ』って。こういうことってかんと埋もれてまうといかんで歴史の中に。そんな事やらせるのかと。と言ったんだけど『書いてもらわないといかん』『木造化に取り組む。業務命令とかいて』その下にこれも書いてくれ。『全責任は市長が負うと、そこ書いてくれ』そこまで言ってやらないと、要するにそのいろんなパターンがあるけどね。2兆6000億円もあるんだから、企業会計までいれると、いろいろありますけど、これだというやつ、これだという大きな流れを変えるのは、相当頑張らないといかん。相当頑張らないといかん。

聞いていて、私は耳を疑いましたが、本人は自慢なものでした。名古屋市に「公開請求」したら、その市長の業務命令書は出てきました。

役人の「木造化はできません。」の理由を市民は聞きたいのですが、役人は自らの役割放棄の笠をつくり、その下に隠れたのでした。

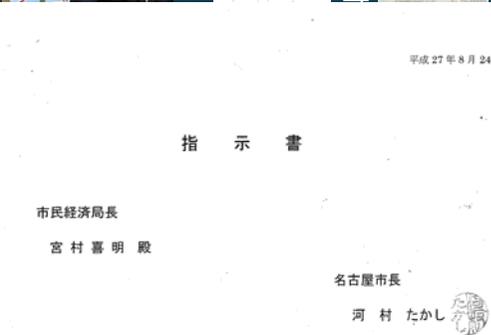
そして、この命令書によって河村市長は「裸の王様」になり、役人の積極的なサポートを得られなくなったのです。

「天守は」 ←
 12月
 6月議会に、ゼネコンによるコンへの案を提出「耐震改修しても40年の寿命、その時には文化庁から木造と言われるので、なら、」



9月 10月 11月 12月

●ゼネコン公募要綱には、二つのコンセプトがあり、選べないと評価委員からあり。
 ●9月議会は、ゼネコンコンペを認めた。市長との全面対決をさせ、議員報酬アップを図る。1年前の、議会11コール、報酬半減。市民アンケートも



- 1.名古屋城跡の具体的な復元整備計画を、速やかに策定すること。
 - 2.復元整備計画は、まず本丸(大小天守、東北隅櫓、多聞櫓、門、石垣等)、二の丸(御殿、庭園、門、石垣等)を整備することとし、本丸天守の復元は、今秋から着手すること。
 - 3.本丸天守の復元の手法については、技術提案交渉方式を採用することとし、9月議会までに法的・技術的課題をクリアすること。また、技術提案交渉方式を進めるために必要な予算を9月議会に提出すること。
 - 4.今後の名古屋城の維持・管理・運営について、新たに民間の知恵も導入すること。
- 以上、本件の全責任は私が取るので、各員全力で取り組またい。



5月に二十一回目を迎えた、石垣部会（文化庁同席）から「木造天守

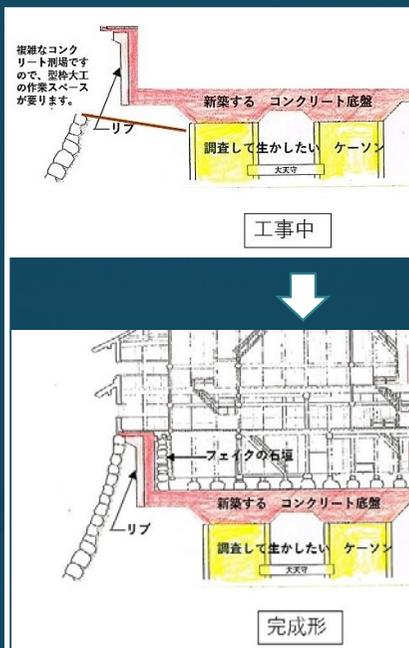
ありきの石垣調査願いを求められても、石垣の保全の立場から認められない。石垣こそ文化財である。」を、

絵で示して説明します。

文化財保護法
第一条（この法律の目的）この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。
第二条（文化財の定義）この法律で「文化財」とは、次に掲げるものをいう。
一 建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的遺産で我が国にとつて歴史上又は芸術上価値の高いもの（これらのものと一体をなしてその価値を形成している土地その他の物件を含む。）並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料（以下「有形文化財」という。）
四 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとつて歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとつて芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で我が国にとつて学術上価値の高いもの（以下「記念物」という。）

これから作る「復元」の木造天守は文化財でないの、石垣優先でない、文化財保護法違反となります。現天守は申請さえすれば、登録有形文化財になると私たちは思っています。

コンクリートに赤を塗って、工事中の姿を想像した。名古屋市の「史実に忠実」とは、見た目だけの事ようだ。「文化財の石垣をないがしろにしている。」となれば、名古屋市のコンペ条件が違うので、コンペのやり直しとなろう。



③木造天守の重さを石垣に載せないように、石垣内部にコンクリート打って、うける。これも、名古屋市のゼネコンへの要望であった。



昭和34年の施工図によると、石垣の裏にコンクリートがあるよう。

●名古屋城を「戦後復興のシンボル」に 20170826

①取り壊し為の仮設が石垣に載るので石垣の耐力調査をしたい。



②石垣の補強、積みなおしは木造天守の完成あとで行う。積みなおしには8年ぐらいかかるか。これは、ゼネコンへの名古屋市からの要望であった。2020年竣工が、2022年に延びても変わっていない。

優先交渉権者 工程計画 (株式会社 竹中工務店)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33~41年度
	7月 10月 1月 4月	7月 10月 1月 4月	7月 10月 1月 4月	7月 10月 1月 4月	7月 10月 1月 4月	7月 10月 1月
文化庁 文化審議会		● 全体計画の許可				
文化庁 復元検討委員会			● 詳細部分の許可			
設計	計画	設計				
仮設	計画	準備	工事			
解体工事		● 外EV	● 現天守			
木造復元工事				● 木造天守閣復元工事		
石垣工事		● 調査等			● 石垣工事 (積直し場合)	
現天守船見学	● 閉鎖					
天守閣工事見学			● 木造天守閣復元工事見学			

名古屋城を「戦後復興市民のシンボル」に

名古屋城は荒れています。市民は入場者の1割でしかなく、年間2億円の赤字を出し続けています。



市民に愛される城にしましょう

「市民公園」「歴史文化の発信」それから「観光」です。観光の為の「木造天守」は要りません。

大坂城は素晴らしいです。名古屋城も「史跡公園」「運動公園」「散策公園」として、北の名城公園も含めて一体的に整備しましょう。名古屋城はタテ割り行政の犠牲となっています。市民の目線で見直しましょう。名古屋城は、名古屋の都心に鶴舞公園の3倍もの面積をもつのですが、間違った名古屋市の「観光」政策の為、せっかくの緑のオープンスペースも市民に有機的に使われていません。中途半端な工事現場に占領されています。

〇入城無料としましょう。大坂城は天守閣博物館だけが有料でした。



市民公園をみんなで育て、活用しましょう。

〇耐震改修と共に、「天守博物館」を刷新し、名古屋の歴史と文化を発信しましょう。

大坂城天守閣博物館は、楽しく、子供たちに、外国の方にも大阪の歴史文化を学べるようになっていきます。企画展示室は、名古屋のように貸し出すのでなく、2か月ごとに学芸員が展示し、リピーターの確保に努めています。



名古屋は、400年まえ、那古野の荒れ地に忽然と、徳川家康によって作られたのでした。城は町のシンボルでした。

徳川宗春の華やかな町の姿を、今に残してくれた享元絵巻を天守博物館は所有していますが、展示していません。大正以降、ものづくりの町として名古屋は発展し、戦後復興の市民のシンボルとして、現天守は作られたのです。壊しては、いけません。呼びかけ人 高橋和生

〒461-0023 名古屋市中区徳川町 1301-302 Design Office TAK Email: takahashi-shiro@pontak.jp

●満身創痍の名古屋城。公園は荒れています。戦後、鶴舞公園と並ぶ都市公園として計画されたのですが、市民の史跡公園であることより、観光地としてとらえられ、建物がドンドン建てられ、いつも工事中です。石垣は10年経ても崩れたままです。戦後植えた松は成長しすぎ、ツタが石垣を這い、石垣が心配です。



●400年前の名古屋城(内藤昌復元) 私たちは、木造が嫌いではないのです。白堊・櫓など、史跡公園として整備し、北に広がる名城公園と合わせ、市民に愛されるオープンスペースとして、市には大切に計画していただきです。二の丸御殿(江戸村?)などは、ありません。県体育館も含めて建物を集め、オープンスペースを確保してください。

●名古屋城を「戦後復興のシンボル」に 20170826